

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【 令和 6 年度 】

担当課・外部検証委員の評価												A:このまま継続			B:改善・見直し			C:廃止・終了		
地域再生計画名	地方創生 関連制度名	分野／ ページ (未来 計画)	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証		外部検証委員の検証									
						指標(開始時)	本年度目標値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見								
「陶器市のまちから通年観光のまちへ」観光地域づくり計画	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) (1/2国庫補助)		「陶器市のまちから通年観光のまちへ」 観光地域づくり計画の KPIに関する検証 →		6,000,000	①地域における観光消費額 8,712万円	①+105万円	①▲895万円	A このまま 継続	①観光客数の増加に伴い、消費額も増加するよう、回遊性を向上させ、滞在時間が延長するような仕組みづくりを関係事業者とも連携して進めていきたい。	A このまま 継続 5委員	・外国人観光客も視野に入れた認知度向上や新たな集客資源の発掘などによる通年観光のまちづくりに期待する。								
						②観光客満足度 89.0%	②+0.1%	②+0.2%		②観光客の満足度は向上してきているが、おもてなしの観点から不足しがちな部分も多々あることから、それらを補い、さらなる魅力的な観光地となれるよう、関係事業者との協力体制の強化に努めたい。		・通年観光のまちにするために、秋葉原朝出発の関東やきものライナーの再開を官民一体となり検討いただきたい。								
						③陶器市を除いた平常時の観光客数 186万人	③+2万人	③+1.7万人		③陶器市期間中を除いた観光客数も増加しているが、地域資源の活用によっては伸びしろは大いにあることから、資源の発掘・磨き上げ・活用に注力していきたい。		・①のKPIは未達成だが、観光客も増加しており、今後とも情報発信等を行い目標を達成されたい。								
						④外国人観光客宿泊数 129人	④+20人	④+101人		④外国人観光客は増加しているが観光地としての認知度は未だ低いと感じており、今後積極的に露出を増やす取り組み等を行うことで、認知度向上を目指したい。										
同上	同上	産業／ 57	【データマーケティング(ニーズ調査)】 ・陶器市以外で益子に来訪したことがない方向けに、陶器市現地でのアンケートや、Instagramチャットボット機能を用いたアンケートおよびアンケート分析を実施する。 再来訪をしないネックとなっている点について深掘りを行うことで潜在ニーズを掘り起こし、収集したデータの分析結果とマーケティングに基づいた来訪意欲を向上させる戦略的な事業につなげることで、回遊コア事業が効果的なものとなるよう活かしていく。 【担当:観光商工課】	■データマーケティング(ニーズ調査) ・通年及び陶器市でのアンケート調査(紙媒体・インスタグラムのチャットボット機能を活用したデジタルアンケート)の実施。陶器市以外に来訪しない理由等を掘り下げるためのデータ分析の実施。 【事業費】1,006,450円 ・データ分析・収集、アンケート事業	同上	同上	同上	同上	A このまま 継続	通年及び陶器市でのアンケート調査については今後も継続・拡大させていくことで、引き続きデータの蓄積・分析を図り、回遊コア事業等の各種事業の充実に努めていきたい。	A このまま 継続 5委員	・アンケート調査による潜在ニーズの発掘・分析を続けていただき、ぜひ観光事業全体に生かしていただきたい。 ・アンケートのデータ分析を確実にを行い、戦略的な事業につなげていただきたい。								

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【 令和 6 年度 】

担当課・外部検証委員の評価 A:このまま継続 B:改善・見直し C:廃止・終了												
地域再生計画名	地方創生 関連制度名	分野／ ページ (未来 計画)	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証		外部検証委員の検証	
						指標(開始時)	本年度目標値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見
前頁に同じ	前頁に同じ	産業 ／ 57	【回遊コア事業】 ①Instagramのインフルエンサーや、町に関係する著名な人物に依頼をし、顧客ニーズに沿ったコースを複数作成する。ランディングページを作成し、各コースの説明とともにGoogleマイマップ機能へのリンクを実装する。観光客は現地からQRコードを読み込むことで、コースの確認だけでなく、そのまま経路案内(Googleマイマップ)がしてもらえる利便性の高い仕組みとする。 周知については、陶器市期間での対面周知、Instagramやwebサイトのネット周知、道の駅や観光農園など人が集まりやすいところでの紹介を実施していく。 ②2023年度に実施した、クラウドファンディングによる益子の新お土産企画について、2024年度から道の駅や宇都宮駅、ふるさと納税などで一般販売を実施する予定である。クラウドファンディングを踏まえると人気商品となる可能性が高いため、本商品を単なるお土産として販売するだけでなく、回遊性に繋げる仕掛けを本事業を通して実装していく。 具体的には、①で作成するコースへの動線として、QRつきの魅力的なポストカードを同封したり、一般販売の際に目立つポップを作成し、益子に興味を持ってもらうための仕掛けづくりなどをおこなう。 【担当:観光商工課】	■回遊コア事業 ・インフルエンサーとコラボした回遊コースの策定 ・ポストカードを作成し、陶器市期間中に地元カフェ等の協力を得て、店先に設置。 【事業費】3,038,450円 ・周遊コース作成・お土産企画テスト販売	前頁に同じ	前頁に同じ	前頁に同じ	前頁に同じ	A このまま継続	インフルエンサーとコラボした回遊コースの策定については、一定の効果ができていると考えており、今後も発展させていきたい。また、新お土産企画についても関係事業者から情報収集した上でアイデアを練り上げ、継続して取り組んでいきたい。	A このまま継続 5委員	・回遊コースの策定が幅広い世代に認知していくことや、新たな目玉となるお土産開発にも期待する。 ・インバウンドも視野に海外インフルエンサーとのコラボも検討いただきたい。 ・回遊コア事業として、インフルエンサーとコラボし一定の効果がでてきているとの事。今後もさらに進めていただきたい。
同上	同上	産業 ／ 57	【広告・プロモーション】 【回遊コア事業】の①と②の事業に関し、情報発信媒体の核として、Instagramのリールやフィード投稿を作成するとともに、Instagramを中心に各SNSでの広告を展開し、発信力を強化・増強する。 あわせて、道の駅などの人気観光施設と連携し、直接興味を持ってもらうためのオフライン上の仕掛けを実施する。(コースを紹介する人物ごとに、「〇〇さん一押しコース」といった持ち帰り可能な壁掛けカードを作り、道の駅の壁の全面に貼りだすなど、情報発信設備として活用する) 【担当:観光商工課】	■広告・プロモーション ・インスタグラムの投稿を中心としたSNSの広告展開、公式観光インスタグラムの運用による発信力の強化 【事業費】1,955,100円 ・SNS投稿用取材経費	同上	同上	同上	同上	A このまま継続	インスタグラムの投稿については、内容を充実させる等、町内の観光事業者等の情報収集を積極的に行い、併せて発信力の強化も図っていききたい。	A このまま継続 5委員	・皆さんの目に留まるような情報発信を続けていただきたい。 ・ふるさと納税についての投稿もしてみてもどうか。 ・今後もインスタグラムの投稿を充実させ、発信力の強化を図り、目標を達成されたい。

地方創生関連事業に関する実績検証資料 【 令和 6 年度 】

担当課・外部検証委員の評価 A:このまま継続 B:改善・見直し C:廃止・終了												
地域再生計画名	地方創生 関連制度名	分野／ ページ (未来 計画)	個別事業の概要	本年度の内容・実績及び事業費 (単位:円)	総事業費 (単位:円)	重要業績評価指標(KPI)			担当課の検証		外部検証委員の検証	
						指標(開始時)	本年度目標値	本年度実績値	評価	KPI・実績に対する見解と今後の方針	評価	主な意見
益子町 起業支援施設「チャレンジショップ」整備計画	地方創生拠点整備交付金 (1/2国庫補助) および 備品購入は 地方創生推進交付金 (1/2国庫補助)	産業 ／ 52	【益子町 起業支援施設「チャレンジショップ」整備事業】 ・最初から独立店舗での開業が難しい事業者に対し、町所有の建物を改修し、低額な家賃で2年間貸し出すことにより、起業・経営ノウハウを習得し、賃借期間終了後に町内空き店舗等にて独立開業する事業者を育成し、空き店舗の活用、商店街の活性化、事業者の定住を図る。 【担当:観光商工課】	■チャレンジショップ運営 【事業費】16,200円 報償費、賃借料	16,200	①本施設整備・稼働後の 空き店舗の年間 利用件数 0件 ②本事業利用 者の起業支援 補助金利用件 数 0件 ③本施設利用 者の町内での 独立開業件数 0件	①8件(累計) ②2件(累計) ③1件(累計)	①6件 ②1件 ③1件	A このまま 継続	①コロナ禍だったR3～R4は目標値である4件を下回り2件だったが、R5及びR6は目標値(各年度2件)を達成できた。 ②当初は、チャレンジショップの入居時に当該補助金を活用する想定であり、現在2期目のため2件が目標値だったが、実際は退去後の開業時に補助金を活用する流れとなっているため、第1期利用者の補助金利用の1件のみであった。 ③KPIを達成できた。今後も空き店舗の情報収集を継続していく。 現利用者の町内独立開業に向け支援するとともに、制度の周知を図っていく。	A このまま 継続 5委員	・今後も町内で起業・開業を希望される方に支援を続けていただきたい。 ・①のKPIは未達成だが、R5、R6年度は目標値2件を達成しており、今後も情報発信等を行い進めていただきたい。
益子町地区別戦略策定支援計画	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) (1/2国庫補助)	経営体 ／ 86	【地区別戦略策定支援事業】 ・前年度の事業成果の補足と最新の人口動態のトレンドの把握のため、改めて区域ごとに人口動態の現状分析と将来推計を行う。 ・地区別戦略の策定に向け、地域住民の理解を得ながら新たなモデル地区の選定を行い、選定後は人口動態の分析結果を踏まえるとともに専門家の支援を受けながら、地域住民と共に地域の強み・弱みを把握し、強みを生かした持続可能な地域づくりに向けた取組を考えるワークショップ等を行う等、モデル地区における地区別戦略づくりを支援する。 ・並行して、戦略策定の意義や優良事例の紹介等を行うと共に、次年度のモデル地区の募集を行う。 【担当:総合政策課】	■地区別戦略策定支援事業 ・人口データの等の集約・整理 ・地区別人口の現状分析・将来予測、定住増加シミュレーション ・地域づくりに関する研修会・講演会の実施 ・山本地区懇談会(4自治会合同)の開催 ・小宅地区懇談会(5自治会合同)の開催 ・大羽、山本、小宅かわらばん発行 ・大羽、山本地区「くらしのガイド」発行 【事業費】7,507,127円 ・委託料 ・報償費(講師謝金) ・旅費 ・消耗品費 ・会議費	7,507,127	①人口の社会 動態(20～30 歳代) △120人 ②地区別戦略 策定数(単年 度計) 0件 ③20～30歳 代の移住者数 (単年度計) 0組 ④自治会加入 世帯の割合 70.62%	①△57人 ②3件 ③25組 ④71.12%	①△34人 ②0件 ③18組 ④67.63%	B 改善・ 見直し	①令和4・5年度から引き続き東京圏への一極集中の改善傾向、若年外国人労働者の流入と、例年より南関東からの転入者の増加により目標を達成できた。引き続き第3期ましこ未来計画に沿った施策を展開する。 ②自治会長連絡協議会で研修・事業説明を実施し、周知に注力しつつ、山本・小宅地区で複数自治会合同の懇談会を実施した。地区ごとの新たな課題等の抽出や強みの再確認ができたが、戦略の策定までには至らず、KPIは未達成であった。次年度以降は懇談会を実施した大羽・山本・小宅地区ごとの支援を実施しつつ、必要に応じ話し合いの場づくりを行う。 ③引き続き移住サポートセンター、移住支援金などで支援を行っているが、目標達成には至らなかった。作成した大羽・山本地区の「くらしのガイド」なども活用し、移住定住を促進する。 ④世帯数は増加する一方、自治会活動を希望しない世帯の増加や退会者の増加を食い止めることができなかった。加入の情報発信の強化等により、地域防災も含めた自治会や地域づくり活動に対する意識高揚を図る。	B 改善・ 見直し 5委員	・自治会加入による地域力・防災力強化などのメリットを周知していく必要がある。 ・地区住民をまきこんでの事業として頑張っている姿を見ているのでA評価でも良いかと思う。しかし、当事者が検討し改善・見直しとしたのであれば、ぜひそのようにして、より良い結果を出していただきたい。 ・東京圏への一極集中、地方の人口減少・少子高齢化はなかなか歯止めがかからない厳しい状況である。このような中、人口動態の把握を行い現状分析と将来推計を行うことは必要である。また、自治会加入率は年々低下しているが、自治会は地域づくりには欠かせない組織であり、果たすべき役割はますます重要になっている。加入増加に向けた施策を、町と自治会にて進める必要がある。